

発達段階により徳を

「子夏曰く、大徳は閑を踰えずんば、小徳は出入すとも可なり」
【子張】

【子夏曰、大徳不レ踰レ閑。小徳出入可也。】

へ（孔子の弟子の子夏が言つ、「仁、義などの大きな徳即ち人にとって大切な根本のものさえ踏み外さなかつたら身の周りの掃除や人との応対など小さな徳は、多少で足りないところがあつてもさしつかえない」と。（大行は細謹を顧みず」の意味にとつてはならないし、小徳にこだわつて大徳を失つてはならないということ。）更に

「子游曰く、子夏の門人小子、洒掃・應對・進退に当たりては則ち可なり。抑々末なり。之に本づくれば則ち無し。之を如何。」

子夏之を聞きて曰く、噫言游過てり。孰れをか先に伝え孰れをか後に倦まん」

【子張】 【子游曰、子夏の門人小子、當灑掃應對進退、則可也。抑末也。本レ之則無。如レ之何。噫言游過矣。君子之道、孰先傳焉、孰後倦焉。】

へ孔子の弟子子游が、同じく孔子の弟子子夏の門人の年少者たちを批評していう、「彼らは、掃除や挨拶、立ち居振る舞いなどはよくできている。でもそれは末のことで、倫理の根本については全くできていない、と。これを聞いて子夏がいう、「ああ、言游（子游）は間違っている。何を先に教え、何を後で教えるか、それは実態によるものだ」と。（つまり成長に応じて教えるもの。小さな子に抽象的なことを教えても身に付かない、具体的な生活の仕方を教えると身に付きやすい。）」

このシリーズ第三回で記したように、人間には発達段階があり、その時その時に最適のものを身に付けると身に付きやすいし最終的に自立した主体的な人と成れるのではないかと考えます。

そこで、発達段階に則して考えると、まず最初は、一回で述べたように愛着形成が大人の接し方で身につきます。これは、元ノースカロライナ大学や東京大学、川崎医療福祉大学などで教鞭を執られた児童精神科医佐々木正美先生が啓発されていたことで、二〇〇五年文科省も報告したことです。できれば三歳までに周りの大人によつて身に付けた人と成るベースのようなもので、これがあると次のステップで定着しやすくと考えます。もちろん、その後でも身に付くと経験則で身を以て知ったことを念のため申し添えておきます。

そして、後、自ら成長しようとする態度を尊重しながら

ら、衣食睡眠の自立や、言葉かけにより言葉の表現等々を身に付けていきます。これは、いわゆる基本的生活習慣、生活リズム等の身の回りからの自立のことです。子夏のいう小徳と言えるものです。

その後、これらを経て、更に人間関係や社会との関係について、様々な経験をし悩んだりしながらもより善き自立心を身に付けていきます。人の温もりの有り難さやしてはならないことは許されたいんだと厳しさも身に沁みこませて、孤独感をも乗り越え精神的に自立していくと考えます。これが、子夏のいう大徳で、いわゆる仁義礼智信勇の徳だと考えます。この上に更に金銭的に自立して、真の「人と成る」ことができると考えます。また、そういう人が組織のリーダーになれば、色々な人の思いも解り信も得て組織の人々を生き生き活潑溼地とさせ組織は発展していくように思います。

渋沢栄一は、この章句は、人を観る時の留意点として学ぶといい、と説いています。やはり、人を見るに仁、義はじめ人としての根本は外せないが、小徳は出入しても可なり、ということだと考えます。なぜなら、論語は

「備わらんことを一人に求むる無かれ」

【微子】

【無レ求レ備於一人。】

へ一人の人に完全無欠を要求するのではなく、その長所を活かすようにしなくてはならない。と

と説いているのです。この世に、完全無欠な人はなかなかいるものではないと考えます。誰でも、生まれた時親をはじめまわりの大人たちに祝福されて生まれ、それぞれ大切に育てられています。多少できないことがあつても、自分を大切に、そして人、社会も大切にすることが本となつて、それぞれの位置でやるべきことに務め、反省し、修正改善を繰り返しながら自分の強みを見いだしていきたいものです。そして、人、社会の役に立って自己実現に近づければうれしいことだと考えます。更には自分が人と成り大人になつたら、そういう人を育てていきたいものだと考えます。そこで、更に論語は

「君子は人の美を成し、人の悪を成さず。」

小人は是に反す」

【顔淵】

【君子成レ人之美、不レ成レ人之惡。小人反レ是】

へ君子は他人の善事や成功を喜んで、それが成就するよう願ひ、他人の失敗などについてはそうならないようにする。小人は反対で人のいい処を妬んだり妨げたりし邪魔をする。と説いています。お互い伸び合うことで、それぞれが成長しつづけるものだと考えます。誠之館開校にあたり、

正弘公自筆の御諭書には、「大節に臨んでは取り違ひないよう、聖賢の教に本づき勉勵すること」と示しています。一人だけでは難しくても、お互い仲間が刺激し合ひながら力を協せ成長し合うことで本旨に適うのではないのでしょうか。皆様のお導きをよろしく願ひします。